



平成22年8月5日

各位

会社名 トピー工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 清水 良朗
 (コード:7231、東証・大証・名証第1部)
 問合せ先 執行役員総務部長 熊澤 智
 (TEL. 03-3493-0777)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 112,000	百万円 1,000	百万円 800	百万円 100	円 銭 0.42
今回発表予想 (B)	115,000	2,600	2,000	600	2.50
増減額 (B - A)	3,000	1,600	1,200	500	—
増減率 (%)	2.7	160.0	150.0	500.0	—
(参考) 前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	91,157	△2,792	△2,311	△2,742	△11.42

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 232,000	百万円 7,400	百万円 6,800	百万円 3,700	円 銭 15.40
今回発表予想 (B)	235,000	9,000	8,000	4,200	17.48
増減額 (B - A)	3,000	1,600	1,200	500	—
増減率 (%)	1.3	21.6	17.6	13.5	—
(参考) 前期実績 (平成22年3月期)	196,848	355	626	△1,032	△4.30

平成23年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 77,400	百万円 500	百万円 900	百万円 400	円 銭 1.70
今回発表予想（B）	74,300	2,500	3,000	1,900	7.91
増減額（B－A）	△3,100	2,000	2,100	1,500	－
増減率（％）	△4.0	400.0	233.3	375.0	－
（参考）前期第2四半期実績 （平成22年3月期第2四半期）	52,571	△2,983	△2,827	△2,855	△11.88

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 162,300	百万円 4,300	百万円 4,500	百万円 2,500	円 銭 10.40
今回発表予想（B）	159,200	6,300	6,600	4,000	16.65
増減額（B－A）	△3,100	2,000	2,100	1,500	－
増減率（％）	△1.9	46.5	46.7	60.0	－
（参考）前期実績 （平成22年3月期）	117,524	△2,256	△2,104	△2,288	△9.52

修正の理由

第2四半期累計期間の業績予想については、建設機械用足回り部品や自動車用ホイールの販売が好調に推移したことなどにより、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに、前回業績予想を上回る見通しとなりました。通期の業績予想については、事業環境の先行きは不透明ではありますが、第2四半期累計期間の業績予想を踏まえて修正しております。

なお、上記の予想は本資料の発行日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

また、至近時の取り組みについては、別紙をご参照ください。

以上

当社は、これまでの幾多にわたる構造改革に加え、2007年度からは、前中長期連結経営計画「MS-2003」を継承した中期連結経営計画「MS-2007」を策定し、「新たな成長分野への一貫生産能力の増強」、「新製品・新生産方式の開発」、「連結経営の新たなステージへの発展」、「財務体質の強化」などの諸施策を実行してまいりました。また、2008年度後半から世界経済が急激に悪化し、需要環境が大幅に冷え込む中、当社も深刻な影響を受けましたが、2009年2月に収益への影響を抑制することを目的に緊急諸施策を発表、推進してまいりました。現在は、一層の固定費の削減や最適生産体制の再構築等によるコスト改革にグループ各社の事業基盤強化策を加えた経営改善計画を実行しております。当社グループの主要事業分野の需要が回復の兆しを見せ始めた現在、MS-2007の諸施策と緊急諸施策及び経営改善計画が着実に成果を上げております。

当社グループは、時代に応じて「鉄」に力強い生命を与え続け、現在では自動車用ホイール・建設機械用足回り部品等複数の事業分野で世界トップレベルのシェアを有し、特色ある地位を確立しております。多岐にわたる事業分野において、人々の生活の様々な局面になくてはならない存在として、事業活動を通じて広く社会に貢献し、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。

■新たな成長分野への一貫生産能力の増強

建設機械用足回り部品など、各事業分野において生産能力を増強してまいりました。

- ・ 建設機械用足回り部品
- ・ 鉱山向け超大型ダンプトラック用ホイール (SGOR)
- ・ 異形鋼 (履板、SGOR、トラック・バス用スチールホイールの素材)

■新製品・新生産方式の開発

新たな収益の柱とすべく、サイエンス事業部を創設するほか、超薄型LED誘導サインやコルゲートリムホイール、SGORスマートタイプなど、新製品・新生産方式を開発してまいりました。

■連結経営の新たなステージへの発展

強靱で柔軟な連結経営体制の確立のため、福建トピー汽車零件有限公司 (自動車用スチールホイールの製造販売) の完全子会社化や青島トピー機械有限公司 (建設機械用足回り部品の製造販売) の連結子会社化 (トピー工業グループの出資比率95%)、橋梁・鋼構造事業を分社化し日鉄トピーブリッジ株式会社として発足などを行いました。

■財務体質の強化

有利子負債の圧縮に引き続き取り組み、財務体質を強化してまいりました。2008年4月には、格付投資情報センター (R&I) より発行体格付けをBBBからBBB+に引き上げられました。

